

## ■ スパルティナ属とは

北米東部原産のイネ科の多年草で、河川の河口域や干潟等に生育する。極めて高い繁殖力と強力な堆砂機能を有するため、干潟造成等の目的で世界各地に意図的に導入されたが、いまでは導入先から逸出し、世界中に分布を拡大している。

本種は高い塩分耐性を有し、侵入するとヨシ等の在来植物を駆逐し大規模な群落を形成する。種子の他、地下茎や茎の断片等から発生し、1メートル/年以上の早さで拡大し島状の群落を形成するため、確認後は早期に防除を行うことが重要である。

本種は優占的に繁殖して干潟を覆いつくすことから干潟の草地化が進み、干潟を生息環境とする魚類、甲殻類や貝類等、また水鳥の採餌環境等にも重大な影響を与える。

日本では、平成20年（2008年）に愛知県の河川（梅田川）への非意図的な侵入が初めて確認され、翌年には熊本県の複数の河川（坪井川、白川、大野川、砂川）への侵入が確認されたことから、平成26年（2014年）には「特定外来生物」に指定された。

## ■ 熊本県における防除の事例

熊本市内の白川及び坪井川では、九州地方環境事務所が、関係機関の協力を得て、平成27年7～8月に重機を用いてスパルティナ属を掘削、埋設する防除を実施している。埋設する用地が確保できる場合、掘削による除去は有効な防除手法である。白川では約1,100m<sup>2</sup>、坪井川では約200m<sup>2</sup>の除去を行い、白川では当時確認されている全てのスパルティナ属の除去を完了した。

### ① 白川での実施状況

白川に生育するスパルティナ属1,122m<sup>2</sup>（16群落）を掘削し、全て除去した。掘削は、ガットバージ浚渫船及びバックホウを用いて実施した。根茎を完全に除去するため、スパルティナ属の外縁に1mを加えた範囲で深さ1mを掘削し、掘削量は1,533m<sup>3</sup>であった。掘削物は河川管理者（国土交通省）が白川河川敷に掘った穴に埋設。これにより、白川において当時確認されている全てのスパルティナ属の除去が完了した。

### ② 坪井川での実施状況

坪井川に生育するスパルティナ属204m<sup>2</sup>（5群落）を掘削し、除去した。白川と同様に、掘削は、ガットバージ浚渫船及びバックホウを用いて実施した。

根茎を完全に除去するため、スパルティナ属の外縁に1mを加えた範囲で深さ1mを掘削し、掘削量は273m<sup>3</sup>であった。掘削物は熊本港内敷地へ運搬し、埋設した。

現在熊本県内では、用地の確保が困難な掘削法ではなく、スパルティナ属を防草シートで遮光することによる防除が環境省及び熊本県により実施されている。遮光下の枯死状況確認やシートの撤去方法等課題はあるものの、スパルティナ属の生育防止に効果が見られている。



ガットバージ浚渫船による  
工事の状況



バックホウによる  
工事の状況



施工前（1群落の例）



施工後（1群落の例）

## ■ 官民連携事例

～セブン-イレブン記念財団と国土交通省の連携～

### 1. 概要

「埼玉セブンの森」の活動場所となる太郎右衛門自然再生地は、桶川市・川島町・上尾市に位置する広大な河川敷である。かつては湿地が広がっていたが、樹林地の高木・壮齢化により、河畔の特徴的な姿が失われているの課題があり、「荒川太郎右衛門地区自然再生事業」は、本来の自然環境を取り戻そうと取り組んでいる事業である。

2022年11月に、一般財団法人セブン-イレブン記念財団、荒川太郎右衛門地区自然再生協議会、川島町、国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所の四者で「埼玉セブンの森」事業に係る連携に関する協定が締結された。

協定に基づき「埼玉セブンの森」では、①荒川の河川改修により残された旧流路周辺の河畔林や湿地を保全・再生し、生物多様性の向上を図る、②「エコロジカル・ネットワーク」（野生動植物の生息空間）づくり、③流域住民が自然と触れ合う機会を提供するの3つを目的に官民連携による活動が進められている。

自然再生地が広大であるため、維持管理の担い手確保が課題となっていたが、セブン-イレブン記念財団の支援を受けることで、大きな規模で持続的な活動を実施できることが期待される。セブン-イレブン記念財団にとっては、全国の店舗で集めた募金を地域の生物多様性保全に役立てるとともに、地元加盟店の地域貢献活動の場となっている。

### 2. 取組内容

「埼玉セブンの森」における主な活動内容は、貴重種の保護、外来種の駆除、モニタリングであり、サクラソウ群落再生地での在来植物の発芽促進を目指した維持管理、竹林・つる性植物の伐採・除去、カヤネズミが生息するオギ群落形成を目指した維持管理、荒川の自然環境と保全再生の大切さを楽しみながら学ぶ機会の提供等が実施されている。



協定締結（協定式）の様子

## 3. 活動の様子

### ① 第1回活動

2022年12月3日、カワラナデシコの植栽、ヨシの運び出し、オギの移植、モニタリング調査、看板設置を行った。総参加人数は46人であった。

### ② 第2回活動

2023年4月8日、サクラソウの植栽、タケの伐採と運び出し、灌木類除去、モニタリング調査、環境学習を行った。総参加人数は51人であった。

### ③ 第3回活動

2023年12月2日、ヨシの運び出し、クワ類の芽生えの除去、記念樹の補植(クヌギ)、モニタリング調査を行った。総参加人数は49人であった。

### ④ 第4回活動

2024年3月30日、タケの伐採と運び出し、つる性植物の除去、モニタリング調査を行った。総参加人数は44人であった。

### ⑤ 第5回活動

2024年11月30日、刈り取ったヨシの運び出し、竹やつる性植物の除去、モニタリング調査を行った。総参加人数は58人であった。

※総参加人数は、セブン-イレブン加盟店と本部社員以外のグループ社員やNPO、行政、地元の人等を含む人数である。



刈ったヨシの運び出し



つる性植物の除去



タケの伐採